

予防接種 ～同時接種のお知らせ～



乳児期においては、インフルエンザ菌b型ワクチン（ヒブワクチン）、小児用肺炎球菌ワクチン、三種混合ワクチンなどの重要なワクチン接種は1歳までに3回接種しないと確実な免疫ができません。大切なお子さんたちをワクチンで予防できる病気（VPDと呼びます）から確実に守るためには、必要なワクチンを適切な時期に必要な回数接種することが大切です。例えば0歳児に多く見られる細菌性髄膜炎はヒブや肺炎球菌が原因となることが多く、できるだけ早期からのワクチン接種が必要となります。百日咳も0才児がかかると重篤化しやすいため早期からの接種が必要です。これらのワクチンを1種類ずつ接種しては、免疫ができるまでにとっても時間がかかります。でも病気は待ってくれませんし、毎週接種に通うのはお母様やお子さんにとって大変な負担です。このため同時接種を行うことをお勧めします。安全性も単独接種と変わらないので、ワクチンの効果を最大限に発揮させるため世界中で同時接種が行われています。わが国でも日本小児科学会から同時接種の勧告がでていることもあり、当院でも同時接種を行うこととしました。

Q. 1種類ずつの接種ではいけませんか？

A. 保護者の方が希望されればこれまで通り、1種類ずつ接種することは可能です。しかし最初に説明させていただいたように、ヒブや肺炎球菌による細菌性髄膜炎や百日咳のように0歳時で防がないといけないVPDは1種類ずつの接種法では時間がかかり確実な免疫ができるのに時間がかかります。当院でもロタウイルスワクチン接種が開始されました。今後は不活化ポリオワクチン、B型肝炎ワクチンの導入が予定されており、お子さんが受ける予防接種の種類・回数はますます多くなっていきます。

Q. 同時接種で問題になることは？

A. 同時接種でのデメリットはありません。複数のワクチン(生ワクチンを含む)を同時に接種して、それぞれのワクチンに対する効果が低下したり、副作用が増えるようなことはありません。

Q. 具体的な接種方法は？

A. 同時接種において、接種できるワクチン(生ワクチンを含む)の本数に原則制限はありません。当院では接種時期、回数が類似しているヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの同時接種をお勧めします。希望があればこれらの同時接種に加えて三種混合や、BCG、MRワクチンなどの同時接種も可能です。ワクチンの組み合わせ方で特に問題となるものはありません(例外として、コレラ+黄熱ワクチンでは効果が減弱することが知られています)。

例1) 生後2か月 ヒブ①+肺炎球菌①+ロタウイルス①
生後3か月 ヒブ②+肺炎球菌②+ロタウイルス②
生後4か月 三種混合①+BCG
生後5か月 ヒブ③+肺炎球菌③
生後5か月 三種混合②(上記から1週間あける)

生後6か月 三種混合③



例2) 生後2か月 ヒブ①+肺炎球菌①+ロタウイルス①
生後3か月 ヒブ②+肺炎球菌②+三種混合①+ロタウイルス②
生後4か月 BCG(ロタウイルス未接種の場合は上記から1週間あける)
生後5か月 ヒブ③+肺炎球菌③+三種混合②

生後6か月 三種混合③

尚、お子様の状態(接種部位の腫脹など)によっては予定通りの同時接種ができない場合もありますので予めご了解願います。同時接種・ワクチンのスケジュールに関しては以下のホームページを参考にしてください。

①日本小児科学会(<http://www.jpeds.or.jp/>)、②VPDを知って子どもを守ろう(<http://www.know-vpd.jp/>)

平成23年12月 戸田中央産院小児科

